

令和6年度南湖湖底改善区における水草繁茂期のシジミ生息状況

久米弘人・井戸本純一・大植伸之

1. 目的

ホンモロコヤセタシジミの漁場として重要な琵琶湖南湖の機能を回復させるため、草津市地先において、湖底改善(覆砂による砂地造成と湖底耕耘)が継続的に行われている。この水域におけるシジミ生息状況調査は例年水草が減少する冬季に行われているが、水草繁茂期にもシジミ生息状況調査を実施した。

2. 方法

調査は、令和6年9月30日に、耕耘区6地点、覆砂区17地点、対照区3地点の計26地点で実施した(図1)。スミスマッキンタイヤ

採泥器を各地点1回採取した底泥からシジミを選別し、計数および殻長の計測を行った。1回の採泥面積を0.0484m²として、生息密度をサイズ別に求めた。

3. 結果

調査結果を表に示す。対照区、耕耘区、覆砂区の平均生息密度は、それぞれ14個/m²、93個/m²、256個/m²となり、覆砂区が最も多くなった。また、南部の調査地点において生息密度が低くなる傾向があった(対照区:南外、耕耘区:南3、覆砂区:R4-1, R4-2)。別途報告している冬季の生息状況と比較すると、どの区域も令和6年3月より減少していたが、覆砂区を除いて令和7年2月には増加していた(図2)。こうした傾向の要因把握のためには、継続的な調査が必要である。



図1 シジミ生息状況調査地点

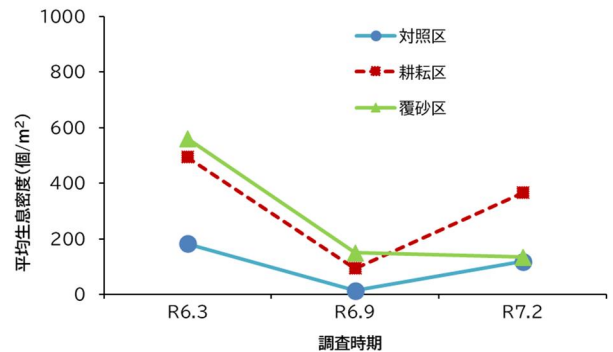


図2 シジミ生息状況の経時変化

表 シジミのサイズ別生息密度(スミスマッキンタイヤ採泥器)

(単位: 個/m²)

サイズ	対照区			耕耘区			対照区			覆砂区																
	北外	北1	北2	北3	中	南1	南2	南3	南外	H20	H21	H22岸	H22沖	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28-H29	H29	H30	R1	R2	R4-1	R4-2
18mm以上	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	41	0	83	0	41	0	0	41	0	0	21	21	0	0
2-18mm	0	21	0	62	21	310	21	0	0	0	455	103	165	124	41	83	145	21	83	269	124	207	41	103	0	0
1-2mm	0	21	0	21	0	0	21	0	0	0	0	0	21	21	0	21	62	0	83	1302	21	0	0	0	0	0
0.5-1mm	21	0	0	21	0	0	41	0	0	0	41	0	41	41	62	0	21	0	0	351	0	62	0	0	0	0
合計	21	41	0	103	21	310	103	0	0	0	496	103	269	186	186	103	269	21	165	1963	145	269	62	124	0	0